

1955年11月6日に生まれる。
50歳愛用しつづけたもの

勝 木 拓 洋

その1 『グローブ』 小学生の時、父親に買ってもらった野球のグローブである。4番サード長嶋・背番号3、に憧れていたときのことである。中学生になるとあまり使わなくなったが、何時も自分の部屋にはあった。大学への入学や東京での何回かの引っ越しにも捨てることができず、今でも自宅の車庫の内にいる。使うことはないであろうと思っていたが、14年前の歯科医師野球大会（小樽）で使用するようになる。そのときの守備位置はショートであったが、翌年空知大会でサードの守備へ。それを機会に新しい大きいグローブを購入した。背番号も3番になる。岩齒Bチームのサードのポジションは今でも私である。ただ左右1mは守備範囲が狭まっているが。子供の頃からの夢が少し叶う。今でもときどき息子とのキャッチボールで使用している。40年間愛用

その2 『ダーカートップ15とヤサカオリジナル縦目裏ソフト厚さ3mm』 中学2年のとき、市内卓球大会で準優勝したときより使用している卓球のラケット（ペンホルダーグリップ）とラバーである。以来この組み合わせは変わっていない。全日本歯科学学生総合体育大会（通称デルタル）にて、3位になったときもこのラケットとラバーを使用していた。ただラバーは1年に1回、ラケットは単板なので割れてしまい、約2年に1回は新しいものと交換していた。今でもときどき、家族旅行などで卓球台があると遊ぶことがあるが、私が福原愛選手の王子サーブができることに、子供たちは感激する。現在でも院長室にあり、昔の仲間と卓球の話をしたときには触ることがある。36年間愛用

その3 『マークII』 決して自動車のことではない。Denar社の半調節性咬合器Mark IIのことである。大学を卒業して1年目、GOAとchBが保険で導入されたときである。時代はGnathologyの全盛期で、治療はフル・マウス・リマンストラクション。Peter・E・Dawsonや、

P.K.Thomas、保母須弥也先生を神様と思っていました。学生のときは、Whip-MixやHanauH2-0などで教育されていましたが、歯科医師となり、初めてこの咬合器と出会う。特長はいろいろあるが、特にセントリックラッチのロックと開放が操作しやすいことと、作業側顆路が後方に約25°傾斜しているため、チックバイトレコードが確実に咬合器に再現できることにある。「総義歯作製にあたり適する咬合器」という阿部晴彦先生の講習会に於いて、最後にスライド2面にわたり、「The Denar Mark II」とでてきたときの感動は今でも忘れられない。当時、治療では初心者の私がフル・マウス・リマンストラクションなどできるはずもなく、ゆいっ1口腔1単位で治療できたのは、上下顎無歯顎患者であり、仕事で一番の楽しみは、マークIIを使用しての総義歯作製になった。これは今でも変わっていない。25年も前のことであるが、現在使用中のものは、4代目であろうか。25年愛用

その4 『マイルドセブン』 私は大の愛煙家である。何度か禁煙は試みたが、今では禁煙をやめた。子供の頃は身体が弱く喘息もあったが、そんなことは気にもしていない。発売以来このタバコを吸っている。他のタバコに変えたことはない。数年後、ミニパイプ・スーパー25が加わる。このヤニトリパイプは決して健康のためではなく、くわえタバコがやりやすいからである。今では、右手でタービンを持つ時間より、左手でのこの組み合わせを持つ時間の方が長い。30年愛煙

その5 『アサヒスーパードライ』 御存じビールである。私はビールが大好きで他のアルコール類はあまり飲まない。ただし量は多い。倒産しそうだったアサヒビールという会社を、キリンビールを追いこして、全国シェア日本一にした製品である。これも発売と同時に飲み始める。家庭では絶対アサヒスーパードライ、外出時には、このビールがない所は行きたくない。17年間愛飲

その6 『スチール・リーダー』 私の趣味のひとつに釣りがあ。北海道に帰って来てから始めた。まだ14年たらずではあるが、今では歯科医師会の数人ともいっしょにオホーツク海などに行くようになった。このスチールリーダーはカレイ釣